

学年：3年	単元名：考える力をのばそう －重なりに注目して（図を使って考える）
-------	--------------------------------------

1. 単元目標：（全 1 時間）

○2つの量の重なる部分に着目して解く問題の解決を通して、問題解決の能力を伸ばす。

考判表・イメージをしっかり持って、図に表現する。

- ・数値は、図のどこを表しているのか考える。

知・技・テープ図を用いて問題を解決しようとする。

・

2. 指導内容

- ・図を活用した重なりのある2つの長さの和の求め方

3. 指導のポイント

○指導者が教科書の内容を動作化しながら説明して、しっかりとイメージさせる。

そして、図をかいて、数値が図のどこに当たるか考えさせる。

○考え方によって、いろいろな式になるおもしろさを感じ取らせたい。

○テープの図から少し抽象化した線分図で考えることができるようにする。（量→線）

○文章の問題は、できるだけ映像的イメージを持たせて考えさせることが大切である。

4. 指導にあたって

①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。

②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）
○図をかいて問題を解こう。（P54/55）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握</p> <p>T:今日は、図をかいていろいろな考え方で問題を解こうと思います。 教科書 P54 を見ましょう。 「1m のものさしを 2 本使って、教室の入り口の高さをはかったら、下のようになりました。教室の入り口の高さは、何 cm ですか。」</p> <p>※実際に 1 m のものさし 2 本使って説明してもよい。 どのようにはかったか絵を見ながら、実際にやってみせる。 重なる部分を強調する。</p> <p>T:では、WS①を見ましょう。かっこの中にどんな数値を入れたらいいかよく考えて数値を記入しましょう。</p> <p>T:できましたか。どうなりましたか。→C:発表 T:そうですね。では、図を見て式を考えて答を出しましょう。</p>	
<p>2. 自力解決・学びあい</p> <p>①$100+100-20=180$ ②$100-20=80$ $80+100=180$ ③$100-20=80$ $100+80=180$ ④$100-20=80$ $80+20+80=180$</p> <p>※WB を黒板に分類して貼る。</p> <p>T:いろいろな式が出ました。大きく 4 つに分かれます。 それぞれについて説明してもらいます。 ※全部でない場合は、T の方で付け加えて説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • WB 配布 • 式と答えをかくように指示する。 • 拡大図を貼る。（説明するため） • 1 つの考えで解けた子どもは、他の考え方も考えるよう指示する。 • ①～④で、数人指名し、説明させる。
<p>3. まとめ・ふりかえり</p> <p>T:わかりましたか。図は同じでも考え方によって式が変わります。大切なことは、考えた通りに式を立てて、答えを出すことです。</p> <p>T:では、P55②をしましょう。 できた人は、持ってきてきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 求める答えが図のどこかを示すために口を使うことを確認しておく。 • 数値を一斉指導で記入させる必要があるかもしれない。